

平成17年度高等学校教育課程実施状況調査 教科・科目別分析と改善点 (地理歴史・地理B)

1. 今回の調査結果のポイント

【ペーパーテスト調査】

- 出題した全問題の中で、通過率が設定通過率を上回る又は同程度（以下、「と同程度以上」という）と考えられる問題が全体の問題数の半数以上を占めた。

<現代世界の系統地理的考察>

- 全体では、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数が、全体の問題数の半数以上を占め、中項目ごとでも、すべての中項目で、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題が、全体の問題数の半数以上を占めた。
- 「自然環境」に関する問題では、ユーラシア大陸東岸にみられる気候の特徴を気温と降水量に関するグラフと関連付けて考察しているかを問う問題で、通過率が設定通過率を下回ると考えられる。

<現代世界の地誌的考察>

- 全体では、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題が、全体の問題数の半数以上を占め、中項目ごとでは、「国家規模の地域」及び「州・大陸規模の地域」に関する問題で、それぞれ、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題が、全体の問題数の半数以上を占めた。
- 「市町村規模の地域」に関する問題では、通過率が設定通過率を下回ると考えられる問題数が該当する問題数全体の半数を占め、こうした規模の地域の特色をとらえる方法に関する問題で、通過率が設定通過率を下回ると考えられる。
- 「国家規模の地域」に関する問題では、ニュージーランドを対象に、降水分布の要因を国土の位置や地形などと関連付けて考察しているかを問う問題や適切に地域区分できるかを問う問題で、通過率が前回は有意に上回った。

<現代世界の諸課題の地理的考察>

- 全体では、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題が、全体の問題数の半数以上を占め、中項目ごとでも、すべての中項目で、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題が、全体の問題数の半数以上を占めた。
- 「居住、都市問題の地域性」に関する問題では、先進国と発展途上国の都市人口率とその変化にみられる地域的な特徴の理解を問う問題で、通過率が設定通過率を下回ると考えられる。
- 記述式問題については、無解答率の減少傾向がみられた。
- 評価の観点では、「知識・理解」について、大地形に関する相互の比較や他の地理的事象との関連付けを踏まえた総合的な理解を問う問題で、通過率が設定通過率を下回ると考えられる。

【質問紙調査】

- 「地理の勉強は大切だ」、「地理を勉強すれば、私の普段の生活や社会生活の中で役立つ」など、地理の勉強に関する意識について肯定的な回答は、前回調査より増加傾向にあった。
- 教師質問紙調査では、作業的な学習を取り入れた指導について、肯定的な回答が約75%で、指導等に関する質問事項の中で高い値となっていた。

2. 今回の調査結果の特色

(1) 現行の高等学校学習指導要領（平成11年告示）の改訂の要点等

平成11年告示の高等学校学習指導要領・地理歴史では、従前の基本的な科目構成を維持しつつ、各科目の特質を生かして内容を厳選するとともに、各科目で主題学習による内容を工夫し、また科目内で内容を選択して学習する仕組みを一層拡充して重点を置いて学習できるよう工夫している。

「地理B」については、地理的な見方や考え方の指導を一層重視し、現代世界の地理的認識と関連付けて体系的に学ぶことができるよう、次のような内容の改善が行われた。

(参考) 地理Bの内容構成

平成元年告示高等学校学習指導要領		平成11年告示高等学校学習指導要領	
内 容		内 容	
大項目	中 項 目	大項目	中 項 目
現代と地域	ア 交通・通信の発達と世界の結合	現代世界の系統地理的考察	ア 自然環境
	イ 現代世界の国家と国家群		イ 資源、産業
	ウ 球面上の世界と地図	現代世界の地誌的考察	ウ 都市・村落、生活文化
	エ 地理情報と地図		ア 市町村規模の地域
オ 地域の調査と研究	イ 国家規模の地域		
人間と環境	ア 人種・民族と国家	現代世界の諸課題の地理的考察	ウ 州・大陸規模の地域
	イ 世界の人口問題		ア 地図化してとらえる 現代世界の諸課題
	ウ 自然環境の地域性		イ 地域区分してとらえる 現代世界の諸課題
	エ 人間生活と環境		ウ 国家間の結び付きの 現状と課題
オ 世界の環境問題	エ 近隣諸国研究	オ 環境、エネルギー問題の 地域性	
生活と産業	ア 産業の立地と地域の変容	現代世界の諸課題の地理的考察	カ 人口、食料問題の地域性
	イ 産業の国際化、情報化と地域分化		キ 居住、都市問題の地域性
	ウ 都市、村落の機能と生活		ク 民族、領土問題の地域性
	エ 産業、人口の都市集中と都市問題		
オ 行動空間の拡大と生活意識の変化			
世界と日本	ア 世界の地域区分と地域		
	イ 日本の地域性とその変容		
	ウ 国際化の進展と日本		

このように、従前と比べて、科目の内容が異なっており、教育課程全体の変化と相まって、各学校における生徒の履修状況も大きく異なってきていることが考えられるため、前回の平成15年度における調査と同一問題や同一質問の結果をみる際には留意する必要がある。

(参考) 履修学年

調査年度(科目名)	1学年	2学年	3学年	1・2学年	1・3学年	2・3学年	1・2・3学年
平成15年度(地理B)	26.3%	11.1%	27.0%	1.2%	1.9%	30.8%	1.6%
平成17年度(地理B)	12.4%	12.2%	19.9%	1.0%	1.0%	50.9%	2.6%

(2) ペーパーテスト調査結果の主な特色

① 過去同一問題についての分析

平成15年度教育課程実施状況調査(以下、「前回調査」という)と同一問題の通過率を比較すると、出題した11問中、前回は有意に上回るものが6問、前回と有意に差がないものが5問、前回は有意に下回るものはなかった。

過去同一問題の通過率比較

全問題数	同一問題数	前回は有意に上回るもの	前回と有意に差がないもの	前回は有意に下回るもの
60	11	6 <54.5%>	5 <45.5%>	0 <0.0%>

前回は有意に上回るものや有意に差がないものについて、内容別、評価の観点別に整理してみると、次の表に示すようになっているが、該当する問題数が限られていることもあって、顕著な特徴はみられない。

前回は有意に上回るもののうち、ニュージーランドにおける降水分布の要因を国土の位置や地形などと関連付けて考察しているかを問う問題 [A5] (1)] では、今回の通過率が前回は11.2ポイント上回るだけでなく、前回の通過率が設定通過率と同程度と考えられる状況であったのに対して、今回は設定通過率より13.3ポイント高く、設定通過率を上回ると考えられる。

過去同一問題の内容別、評価の観点別通過率比較

		同一 問題数	前回は有意に 上回るもの	前回と有意に 差がないもの	前回は有意に 下回るもの
内 容 別	(1)現代世界の系統地理的考察	1	1	0	0
	(2)現代世界の地誌的考察	3	2	1	0
	(3)現代世界の諸課題の地理的考察	7	3	4	0
評 価 観 点 別	関心・意欲・態度	1	1	0	0
	思考・判断	5	3	2	0
	資料活用の技能・表現	1	0	1	0
	知識・理解	5	3	2	0
合計		11	6<54.5%>	5<45.5%>	0<0.0%>

※評価の観点のうち、関心・意欲・態度の観点は、他の観点とあわせて出題しているため、「評価の観点別」の問題は、「合計」の問題数にはカウントしていない。

② 内容の項目別にみた分析

全体としては、出題した全問題60問中、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数は51問であり、全体の問題数の半数以上を占めている。

内容の項目別に通過率と設定通過率を比較すると、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題が、すべての大項目で全体の問題数の半数以上を占めている。各項目別にみた状況は次のとおりである。

内容の項目別にみた設定通過率との比較

大項目	問題数	設定通過率との比較		
		上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
(1)現代世界の系統地理的考察	15	11<73.3%>	2<13.3%>	2<13.3%>
(2)現代世界の地誌的考察	12	4<33.3%>	4<33.3%>	4<33.3%>
(3)現代世界の諸課題の地理的考察	33	21<63.6%>	9<27.3%>	3<9.1%>
合計	60	36<60.0%>	15<25.0%>	9<15.0%>

<現代世界の系統地理的考察>

中項目	問題数	設定通過率との比較		
		上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
ア 自然環境	6	3	1	2
イ 資源、産業	6	6	0	0
ウ 都市・村落、生活文化	3	2	1	0
合計	15	11<73.3%>	2<13.3%>	2<13.3%>

この大項目では、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題が、すべての中項目で全体の問題数の半数以上を占めている。

この大項目の中で下回ると考えられる問題は2問あり、いずれも「ア 自然環境」に関するものである。とくに、ユーラシア大陸東岸にみられる気候の特徴を気温と降水量に関するグラフと関連付けて考察しているかを問う問題 [B1] (2)] では、設定通過率55%に対して通過率36.9%で、設定通過率を下回ると考えられる。解答類型別の反応率をみると、気候の特徴を、月別平均気温の変化と関連付けて考察できているが、月別降水量の変化と関連付けた考察ができていないと考えられる解答類型2が32.5%となっている。前回調査でも、気温と降水量のグラフから二都市の気候の違いを読み取る問題で、設定通過率を下回ると考えられる状況がみられ、気候の特徴を気温と降水量のグラフと関連付けた学習の指導に引き続き課題がみられる。また、こうした点については、平成15年度小・中学校教育課程実施状況調査（中学校・社会〈地理的分野〉）でも同様の課題が指摘されている。

<現代世界の地誌的考察>

中項目	問題数	設定通過率との比較		
		上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
ア 市町村規模の地域	6	2	1	3
イ 国家規模の地域	3	2	1	0
ウ 州・大陸規模の地域	3	0	2	1
合計	12	4<33.3%>	4<33.3%>	4<33.3%>

この大項目では、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題が、「イ 国家規模の地域」と「ウ 州・大陸規模の地域」のそれぞれで、全体の問題数の半数以上を占めている。その一方、「ア 市町村規模の地域」で、通過率が設定通過率を下回ると考えられる問題数が6問中3問と該当する問題数全体の半数を占め、この中項目の指導に課題があると考えられる。詳細にみると、この中項目で下回ると考えられる問題は、地形図の読み取りや調査目的にあった資料の収集など、市町村規模の地域の特色をとらえる方法に関する問題である。例えば、縮尺による表現の違いに関する問題 [B3] (2)] では、設定通過率55%に対して通過率45.3%で、設定通過率を下回ると考えられ、こうした直接経験地域を中心とする規模の地域の特色をとらえる方法が十分身に付いていない点に課題があると考えられる。

<現代世界の諸課題の地理的考察>

中項目	問題数	設定通過率との比較		
		上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
ア 地図化してとらえる現代世界の諸課題	2	2	0	0
イ 地域区分してとらえる現代世界の諸課題	2	1	1	0
ウ 国家間の結び付きの現状と課題	2	2	0	0
エ 近隣諸国研究	6	5	1	0
オ 環境、エネルギー問題の地域性	6	4	2	0
カ 人口、食料問題の地域性	6	3	2	1
キ 居住、都市問題の地域性	3	1	1	1
ク 民族、領土問題の地域性	6	3	2	1
合計	33	21<63.6%>	9<27.3%>	3<9.1%>

この大項目では、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題が、すべての中項目で全体の問題数の半数以上を占めている。

この大項目全体の中で、通過率が設定通過率を下回ると考えられる問題数は3問である。とくに、「キ 居住，都市問題の地域性」にかかわる，先進国と発展途上国の都市人口率とその変化にみられる地域的な特徴の理解を問う問題 [B9] (1)] では，設定通過率55%に対して通過率19.2%で，設定通過率を下回ると考えられる。解答類型別の反応率をみると，都市人口率にみられる先進国と発展途上国との違いのみに着目していると考えられる解答類型1及び解答類型6が，それぞれ22.7%，20.9%となっている。都市問題という現代世界の諸課題について，先進国と発展途上国の間だけでなく，発展途上国間における都市人口率やその変化にみられる多様性を踏まえた学習の指導に課題があると考えられる。

③ 評価の観点別にみた分析

評価の観点別に通過率と設定通過率を比較すると，通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題が，すべての観点で全体の問題数の半数以上を占めている。各評価の観点別の状況は次のとおりである。

評価の観点別にみた設定通過率との比較

評価の観点	問題数	設定通過率との比較		
		上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
関心・意欲・態度	13	10<76.9%>	2<15.4%>	1<7.7%>
思考・判断	26	20<76.9%>	4<15.4%>	2<7.7%>
資料活用の技能・表現	15	6<40.0%>	5<33.3%>	4<26.7%>
知識・理解	19	10<52.6%>	6<31.6%>	3<15.8%>

※複数の評価の観点にまたがる問題があるため，前記の表の問題合計数と異なる。

地理Bの「関心・意欲・態度」の観点は，「現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め，それを意欲的に追究するとともに，国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとすること」を趣旨としている。この観点に関する問題では，通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数は13問中12問であり，全体の問題数の半数以上を占めている。例えば，地域性を踏まえた国際協力に対する関心と課題意識をもっているかを問う問題 [B10] (3)] では，設定通過率50%に対して通過率61.6%で，設定通過率を上回ると考えられる。

「思考・判断」の観点は，「現代世界の地理的事象から課題を見だし，それを系統地理的，地誌的に考察するとともに，国際社会の変化を踏まえて公正に判断すること」を趣旨としている。この観点に関する問題では，通過率が設定通過率と同程度以上と考えられるの問題数は26問中24問であり，全体の問題数の半数以上を占めている。

「資料活用の技能・表現」の観点は，「地図や統計，画像など地域に関する諸資料を収集し，有用な情報を選択，活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付けるとともに，追究した過程や結果を適切に表現すること」を趣旨としている。この観点に関する問題では，通過率が設定通過率と同程度以上と考えられるの問題数は15問中11問であり，全体の問題数の半数以上を占めている。

「知識・理解」の観点は，「現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し，その知識を身に付けていること」を趣旨としている。この観点に関する問題では，通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数は19問中16問であり，全体の間

題数の半数以上を占めている。この観点に関する問題の中で、世界の大地形に関する理解を問う二つの問題についてみると、大地形に関する個別的な理解を問う問題 [B¹ (1)] では、設定通過率を上回ると考えられる。これに対して、大地形に関する相互の比較や他の地理的事象との関連付けを踏まえた総合的な理解を問う問題 [A¹ (1)] では、設定通過率を下回ると考えられる結果となっている。このことから、いくつかの地理的事象を、相互に比較したり関連付けたりして、その意味や内容を理解させる学習の指導に課題があると考えられる。

④ 問題形式別にみた分析

問題形式別では、全問題60問中10問の記述式問題（地図などを作成する問題を含む）を出題したが、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数は8問で、記述式問題の問題数全体の半数以上を占めている。また、10問の記述式問題のうち、無解答率が20%を超えているものは4問（前回調査では10問中5問）、最も低い無解答率は7.5%（前回調査では9.4%）であり、記述式問題全体として無解答率が低くなる傾向がみられる。

問題形式別にみた設定通過率との比較

問題形式	問題数	設定通過率との比較		
		上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
記述式問題	10	7<70.0%>	1<10.0%>	2<20.0%>
記述式問題以外の問題	50	29<58.0%>	14<28.0%>	7<14.0%>
合計	60	36<60.0%>	15<25.0%>	9<15.0%>

⑤ 前回調査における課題との関連

前回調査のペーパーテスト調査の分析からは、主に次の三つの点が課題とされた。

- ・ 地図化したりグラフ化したりする作業的な学習活動が不十分と考えられること
- ・ 地理的事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえたり、それを基に考察したりする学習が十分とはいえないこと
- ・ 地理的知識と資料を関連付けて活用したり、地理的な条件を相互に関連付けて因果関係を追究したりする学習が不十分と考えられること

これらの課題のうち、まず作業的な学習活動についてみると、後述する教師質問紙調査では約75%の教師が「行っている方だ」「どちらかといえば行っている方だ」と肯定的に回答している。過去同一問題で、作業的な学習活動とかかわりが深いと考えられるニュージーランドを適切に地域区分できるかを問う問題 [A⁵ (3)] では、前回調査の通過率を有意に上回っている。また、今回の調査でも、例えば、モンスーンが卓越する区域を表現する問題 [B⁴ (2)] では、通過率が設定通過率と同程度と考えられ、前回調査で不十分とされた作業的な学習活動への取組は進んできていると考えられる。

位置や空間的広がりとのかかわりでとらえる学習についても、その指導は改善されつつあると考えられる。例えば、過去同一問題で、信仰されている地域の広がりとのかかわりで四大宗教の特徴の理解を問う問題 [A³ (3)] では、前回調査の通過率を有意に上回っている。また、今回出題した、地理的事象を位置や空間的広がりとのかかわりでとらえているかを問う問題、例えば、酸性雨と砂漠化について、環境破壊が進んでいる地域の空間的広がりとのかかわりでとらえているかを問う問題 [B⁷ (1)] でも、設定通過率65%に対して通過率は76.6%と、設定通過率を上回ると考えられる。

これらに対して、地理的知識と資料を関連付けて活用したり、地理的な条件を相互に関連付けて因果関係を追究したりする学習については、前述の「② 内容の項目別にみた分析」の項で、気候の特徴を気温と降水量に関するグラフと関連付けて考察しているかを問う問題にかかわる分析や、「③ 評価の観点別にみた分析」の項で、世界の大地形に関する二つの問題にかかわる分析のように、その指導の改善が引き続き課題となっていると考えられる。

⑥ 国際調査における課題との関連

生徒の学習到達度調査(PISA2003)では、「読解力」に課題があり、「テキストの中の情報の取り出し」「テキストの解釈(書かれた情報がどのような意味を持つかを理解したり、推論したりすること)」「熟考・評価(テキストに書かれていることを知識や考え方、経験と結び付けること)」という読解のプロセスにおいて、とくに「テキストの解釈」と「熟考・評価」に課題があることが指摘された。

これらのプロセスと課題を、今回の調査結果の具体的な問題でみると、「テキストの中の情報の取り出し」では、表・地図・グラフといった非連続型テキストから地理情報を取り出す力は身に付いていると考えられる。例えば、表から国際観光客の移動に関する情報を取り出す問題[A3](2)や、グラフから自動車生産に関する情報を取り出す問題[B2](3)は、いずれも通過率が設定通過率を上回ると考えられる。

『読解力向上に関する指導資料』(平成17年12月文部科学省刊行)では、テキストに基づいて自分の考えや理由を述べる問題が、「熟考・評価」のプロセスに関して課題がみられる具体的な問題として指摘されている。こうした問題について、今回の調査結果では、例えば、チューリップ生産と流通にかかわる社会的条件を考え、二つの地域での違いを述べる問題[A4](3)では、設定通過率45%に対して通過率72.0%で、設定通過率を上回ると考えられ、交通体系や生産状況を示した図・グラフと空港を比較した表の読み取りを基に社会的条件を考察して、二つの地域が違う理由を的確に述べている状況がうかがえる。また、二酸化炭素排出量の表に基づいて、温暖化に影響を与える国を考え、その理由を述べる問題[B7](2)も設定通過率を上回ると考えられ、表・地図・グラフに基づき、地理的な考え方や知識を使って自分の考えや理由を述べる力は身に付いていると考えられる。

(3) 質問紙調査の結果の概要

① 生徒質問紙調査

学習の基盤となる地理の勉強に対する意識をみると、「好きだ」、「大切だ」、「役立つ」等の好感度・有用感にかかわる質問事項で、前回調査の結果と比べて肯定的な回答の割合が増加している。個々の学習内容に対しても、すべての項目で「普段の生活や社会生活の中で役に立つと思った」とする回答の割合が「役に立つと思わなかった」の割合を上回っている。こうした結果を反映して、地理Bの勉強の理解に関する肯定的な回答の割合も増加している。

地理の勉強に対する意識

質問事項	肯定的な回答の割合	否定的な回答の割合
「地理の勉強が好きだ」	51.2%<43.6%>	44.0%<51.0%>
「地理の勉強は大切だ」	68.7%<63.6%>	26.0%<29.4%>
「地理を勉強すれば、私の普段の生活や社会生活の中で役立つ」	65.1%<59.6%>	29.0%<32.9%>
「地理Bの授業がどの程度分かりますか」	49.2%<42.8%>	20.4%<24.7%>

※「肯定的な回答の割合」は「そう思う(よく分かる)」と「どちらかといえばそう思う(だいたい分かる)」の割合、「否定的な回答の割合」は「そう思わない(ほとんど分からない)」と「どちらかといえばそう思わない(分からないことが多い)」の割合。以下同じ。< >は、平成15年度調査結果。

地理的事象等に関する興味・関心では、博物館等の利用、テレビ番組の視聴、書籍の利用、地図の活用に関する質問項目で、前回調査の結果と比べて、「好きだ」や「そうしている」とする肯定的な回答の割合が増加している。特にテレビ番組の視聴に関する質問項目では、今回の調査結果で肯定的な回答の割合が52%を占めている。

学習方法等に関する意識では、今回の調査から質問事項に入った地図化・グラフ化するなどの作業的な学習を除いたすべての質問事項で、前回調査の結果と比べて肯定的な回答の割合が増加している。特に野外観察・調査といった体験的な学習では、前回調査と同様に肯定的な回答の割合が否定的な回答の割合を上回っているだけでなく、その差は前回調査に比べて広がっている。

地理的事象等に関する興味・関心や学習方法等に関する意識

質問事項	肯定的な回答の割合	否定的な回答の割合
「日本や世界各地の自然や人々の生活を扱ったテレビ番組をよく見ていますか」	52.1%<49.6%>	47.1%<49.9%>
「地理Bの授業で、野外に出て観察したり調査したりする学習は好きですか」	22.6%<20.5%> 53.7%<52.1%>	18.9%<18.3%> 45.0%<46.4%>

※「肯定的な回答の割合」は「そうしている(好きだ)」と「どちらかといえばそうしている(好きだ)」の割合の合計、「否定的な回答の割合」は「そうしていない(好きではない)」と「どちらかといえばそうしていない(好きではない)」の割合。<>は、平成15年度調査結果。斜数字は、全体から「野外に出て観察したり調査したりする学習をまったく又はほとんど行っていない」と回答した者を回答者総数から除いたものに対する割合。

② 教師質問紙調査

様々な指導等の実施状況を見ると、今回の調査から質問事項に入った地図化・グラフ化するなどの作業的な学習を取り入れた指導について、「行っている方だ」、「どちらかといえば行っている方だ」とする肯定的な回答の割合が約75%と、指導等に関する他の質問事項に比べて高い値を示している。また、発展的な指導では、「行っている方だ」、「どちらかといえば行っている方だ」とする肯定的な回答の割合が、前回調査に比べて増加している。その一方で、課題解決的な学習や体験的な学習を取り入れた指導では、前回調査に比べて肯定的な回答の割合が減少している。

作業的な学習や課題解決的な学習を取り入れた指導の実施状況

質問事項	肯定的な回答の割合	否定的な回答の割合
「地図を使って作業をしたり、表・グラフを作ったりする授業を行っていますか」	75.7%<未調査>	19.5%<未調査>
「課題解決的な学習を取り入れた授業を行っていますか」	17.2%<22.8%>	77.2%<75.8%>

※「肯定的な回答の割合」は「行っている方だ」と「どちらかといえば行っている方だ」の割合、「否定的な回答の割合」は「行っていない方だ」と「どちらかといえば行っていない方だ」の割合。<>は、平成15年度調査結果。

個々の学習内容に関する意識では、「(3)ウ 国家間の結び付きの現状と課題」に関する質問項目を除く13項目で、「生徒は興味を持ちやすい」とする回答の割合が「生徒は興味を持ちにくい」とする割合を上回っており、前回調査に比べて、こうした意識を示す項目の学習内容の項目全体に占める割合が増加している。

③ 生徒質問紙調査と教師質問紙調査との比較

前回調査の生徒質問紙調査及び教師質問紙調査の分析からは、興味・関心や理解度などについて、生徒と教師の意識に違いがみられる学習内容の項目があり、その指導が課題とされた。この点について、今回の調査では、そうした違いがみられる項目の学習内容の全体に占める割合が、前回調査と比べて減少している。例えば、生徒の回答では「きれいだった」とする割合が「好きだった」とする割合を上回っているにもかかわらず、教師の回答では「生徒は興味を持ちやすい」とする割合が「生徒は興味を持ちにくい」とする割合を上回っている項目をみると、前回調査では学習内容の全18項目中11項目であったものが、今回の調査では全14項目中4項目であり、全体に占める割合は減少している。

しかしながら、「(2)ア 市町村規模の地域」に関する質問のように、生徒の回答では「きれいだった」とする割合が「好きだった」とする割合を13.9ポイント上回る一方、教師の回答では「生徒は興味を持ちやすい」とする割合が「生徒は興味を持ちにくい」とする割合を40.2ポイント上回っているなど、両者の意識が大きく違う項目もみられ、指導に当たっては引き続き留意する必要がある。

3. 今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点

○ 市町村規模の地域の学習指導に関する一層の工夫

「市町村規模の地域」に関する学習について、こうした直接経験地域を中心とした日常の生活圏、行動圏にあたる規模の地域の特色をとらえる方法が十分身に付いていないと考えられる状況や、生徒と教師の意識に大きな違いがあると考えられる状況がみられる。そこで、この規模の地域の指導に当たっては、例えば、小地形の学習を基にその具体的な事例を観察する活動を取り入れるなど既習事項を踏まえて生徒の興味・関心を高めるような学習内容を取り上げることや、様々な事情で直接的な調査が困難な場合にはインターネットやICTを活用して地域に関する情報を効率よく収集、分析する学習を工夫すること、地理学習の実用性とそれに対して生徒がもっている高い有用感を生かし、自然災害に備えた地域づくりなど地域の課題を地理的な手法で考察させることといった一層の工夫改善が必要である。

○ 地域の多様性を踏まえた現代世界の諸課題の学習に関する指導の充実

「現代世界の諸課題」に関する学習について、例えば、居住、都市問題では、世界の各地域を先進国と発展途上国とに二分し概念的にとらえることにとどまっていたり、先進国間や発展途上国間にみられる多様性を認識する学習が不十分と考えられる状況がみられ、その指導に課題がある。都市問題を含めて現代世界の諸課題については、各地域によって現れ方が異なっていたり、その解決には各地域の特色を踏まえた国際協力が必要であったりすることから、例えば、発展途上国間でも、都市化の要因やプロセスの違いなどから、国や地域によって様々な居住、都市問題の現れ方があることに着目させるなど、地域の多様性を踏まえた指導を充実させる必要がある。なお、その際、個々の国や地域に関する網羅的、羅列的な指導にならないように留意する必要がある。

○ 地理的諸事象を比較や関連付けによって考察、理解させる指導の充実

「自然環境」に関する学習について、気候の特徴を気温と降水量のグラフと関連付けてとらえていないと考えられる状況や、「知識・理解」の観点でみたように、大地形の特徴を相互に比較してとらえ理解していないと考えられる状況がみられる。この点は、前回調査でも指摘されており、地理的事象について、他の地理的事象と相互に比較したり、関連付けたりして考察、理解させる指導の充実が望まれる。そこで、例えば、世界の大地形の学習に関しては、造山帯を個別に取り上げて地形の特徴や形成時期等を理解させる指導にとどまらず、他の造山帯と比較したりプレートテクトニクスなどと関連付けたりして考察させ、理解と定着を図るなど、個別の地理的事象の意味や内容の理解と定着を図るだけの指導にとどまらず、他の地理的事象との比較や関連付けといった手法を用いて、総合的、体系的に考察させ、理解と定着を図る指導を充実させる必要がある。なお、こうした指導は、地理的事象の考察、理解だけでなく、地図を含む様々なテキストから情報を取り出し、それらを比較したり関連付けたりして、その意味を解釈し、自らの知識や経験に位置付けて熟考・評価する「読解力」の育成にも資するものと考えられる。